

---

# 雲と共に…

雪空

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雲と共に…

### 【著者名】

ZZマーク

N9537C

### 【作者名】 雪空

### 【あらすじ】

少しづつ変化していく関係…それはまるで雲の様に

(前書き)

幼馴染みのお話。

初めて書いたのでもまだですが読んでいただけたと嬉しいです。

「花ーー！」

聞きなれた声が私を呼んだ。なんか超笑顔なんだけど… 嫌な予感がする…

私、浅井 花。高校2年生。呼びながら走ってきたコイツは相原泉。同じく高校2年生。

もう10年以上の付き合いになる。言わば幼馴染みだ。名前順で並ぶと常に隣。家も近くて小さい頃から兄弟の様に毎日遊んだ。時が経つにつれてそんな関係で満足出来なくなってきた私がいた。

いつからだろ？ 私が泉を好きになつたのは…

「花、聞いてくれよ。俺如月さんに告られちゃつてさあ  
嫌な予感的中。如月さん…隣のクラスの美人さんだ。女の口の私でもホレちゃうぐらい。

「ふーん、よかつたじゃん。付き合つちゃえば？ってか相変わらず

モテるねえ。」 素直じゃない…私のバカ（凹）

「だろー、俺モテるしさあ（笑）如月さん美人だし お前は一度も告られたことすらないもんな。」

「どうせ、私はモテませんー。」

私はブイツと顔を反らした。そつ、泉はモテる。背も高いし、カッ

「いーし…

「そうだろ、そうだろ。」

うん、うんと頷きながら泉は言つ。ズキつ

私の中で鈍い音がした。私は如月さんみたいに美人じゃないし……そんなコト言われなくとも分かってるよ。でも泉には言われたくなかつた……そんなこと……

「だつて花の可愛さは俺だけが知つてればいいんだからさ」

私の頬に泉の手が触れた

風が吹いた

止まつていた雲が流れてゆく……

私たちの関係も……動きだした

(後書き)

ベタでしたかね（笑）

感想、改善点などがありましたらよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9537c/>

---

雲と共に...

2010年12月4日22時51分発行